

JAPIC

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

NEWS



Contents

巻頭言

「2年目を迎えたアッヴィ」

アッヴィ合同会社 社長 出口 恭子 2

インフォメーション

医薬品集発刊!

JAPIC「医療用医薬品集2015」検索性DVD付 好評発売中..... 4

JAPIC「一般用医薬品集2015」(要指導医薬品を含む)好評発売中..... 4

10月末発売!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2014年10月版」..... 4

「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2014年10月版」..... 4

10月発刊します!! 新薬承認審査報告書集「日本の新薬」60~64巻 5

10月の企業展示

1. 第20回日本薬剤疫学会学術総会2014..... 5

2. 第47回日本薬剤師会学術大会 5

コラム

最近の話題 「リスクコミュニケーションと患者向医薬品情報」

昭和薬科大学 医療薬学教育研究センター 教授 山本 美智子..... 6

会員の声「目からウロコが落ちるような出会い」

大正製薬株式会社 医薬事業部門 情報検索室 高橋 俊哉 8

くすりの散歩道 No.80「歯のお話」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 岡本 恵 9

トピックス

JAPICサービスの紹介

JAPIC-Q(医薬文献・学会情報速報)サービス/JAPIC-QXサービス..... 10

MEDLINE索引語MeSH, SCRの医薬品名用語と米国・欧州承認医薬品名の調査

(一財)日本医薬情報センター データベース検索サービス課 井上 彰..... 12

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋)..... 14

図書館だよりNo.292 情報提供一覧..... 15

今月の表紙

ノイシュヴァンシュタイン城
(ドイツ)

10

2014 | No.366

2年目を迎えたアツヴィ

アツヴィ合同会社 社長
出口 恭子 (Deguchi Kyoko)



JAPIC会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素は弊社の事業に格段のご高配を賜りましてありがとうございます。

アツヴィは2013年1月に設立、今年2年目を迎えました。おかげさまで、会社設立1年目にして世界そして日本においても着実な成果を上げることができました。米国で製薬企業売上ランキングにおいて上位10位内に入り、昨年通期売上高は約188億ドル（約2兆円）と当初見通しを上回ることができました。また、日本国内で3つの追加適応を新たに取得するなど、幸先の良いスタートを切ることができました。

〈スタートアップ企業として〉

アツヴィは125年以上の歴史を持つヘルスケアカンパニーであるアボットラボラトリーズ社の特許製品を取り扱うプロプライエタリー医薬品事業部が独立、分社して誕生しました。アツヴィという社名の由来は、前身であるAbbottとラテン語で「生命」を意味するVieを組み合わせたものです。“Abb”はアボットから受け継ぐ財産である最先端の科学技術、“Vie”は世界中の人々の生活の向上のために貢献する意志を示しています。最先端技術と安定した経済基盤、そしてバイオテック企業の革新性を併せ持つ、製薬業界のスタートアップ企業です。また、研究・開発に対する革新的なアプローチの原点に患者さんの生活の向上を第一に考える「患者さん志向」を置いていることが大きな特徴といえます。

〈世界の中のアツヴィ〉

親会社にあたるアツヴィ・インク (AbbVie Inc.) は、米国イリノイ州ノースシカゴに本社を置き、全世界で約2万5千人の社員を擁しております。7つの国際的な研究開発および製造施設を持ち、世界170カ国での事業展開により、困難な病気に苦しんでおられる患者さんを支えています。主力製品として、世界で1兆円を超える製品である、ヒト型抗TNF- α モノクローナル抗体のヒュミラを有しており、ヒュミラは現在でも二桁成長を続けています。(昨年比18.4%増 第一四半期実績) これは市場成長率の約4倍の成長率にあたります。このほかアンドロゲル*、シナジス、クレオン*、ルプロン*、カレトラ、ノービア*、ゼンプラー*など成長ブランドと恒久的な成熟製品から構成される幅広い

い医薬品ポートフォリオを取り揃えています。*国内未承認医薬品

〈日本におけるアツヴィ〉

国内では、アツヴィ合同会社として、東京都港区三田に本社を構え、社員数は現在約650名に上ります。1年目の業績は、市場全体の薬価ベースでの対前年比成長率が3.1%であるのに対し、当社は11.8%と約4倍の伸びを示しました。(2014年IMSHealthJPMより) ヒュミラ®、シナジス®を柱とした基礎成長に加え、C型肝炎や進行期パーキンソン病治療薬などの後期パイプライン品目の開発も予定通りの進捗を期しております。

日本におけるアツヴィの主力製品を幾つかご紹介させていただきます。ヒト化抗RSウイルスモノクローナル抗体のシナジスはRSウイルス感染症の唯一の特異的抗体として多くの子供たちを重症化のリスクから守っています。罹患すると重篤な下気道疾患を発症しやすい早産児、慢性肺疾患、先天性心疾患の乳幼児への適応に加え、2013年8月には免疫不全とダウン症候群の乳幼児への適応が承認されました。

世界で最も処方されているヒュミラはわが社の生物学的製剤に関する高い専門性を象徴する薬剤です。2008年の日本での発売以来、関節リウマチ、乾癬、関節性乾癬、クローン病、若年性関節炎、強直性脊椎炎、腸管型ベーチェット病、潰瘍性大腸炎の8つの適応を取得し、現在新たな4つの疾患領域における安全性と有効性が研究されています。

日本で初めて承認された選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI) のルボックス®は、うつ病、うつ状態のほか、強迫性障害、社会不安障害への適応があります。このほか、2009年に国内承認を受けたHIV感染症治療薬カレトラ®、吸入麻酔剤のセボフレン®など息の長い医薬品は、長年日本の医療の現場を支えています。

〈日本における戦略とパイプライン〉

当社は、研究開発型バイオ医薬品企業として、複雑かつ治療が困難な疾患を対象に、生物学的製剤で構成される豊富なパイプラインを持っています。具体的には、免疫疾患、肝疾患、ニューロサイエンス、オンコロジー、腎疾患、ウィメンズヘルスの領域の患者さんのニーズに応え

るべく、スペシャリティ医薬品に特化した研究・開発に重点を置き、ポートフォリオ拡大に努めております。

現在開発中の新薬については、糖尿病性腎症、進行期パーキンソン病、C型慢性肝炎の治療薬で第Ⅲ相試験が進行しています。

市販薬では、ヒュミラ（一般名アダリムマブ）の効能効果追加について、ブドウ膜炎およびクローン病の追加用量試験を実施しており、加えて新たに潰瘍性大腸炎について追加用量試験および小児対象試験を国際共同試験として開始しています。そのほかルボックス（一般名フルボキサミン）が小児強迫性障害患者さんを対象とした第Ⅲ相試験を実施しております。

このほか腎疾患領域、がん領域、認知障害型統合失調症などが続くニューロサイエンス領域、そして新たな抗体医薬品の開発による自己免疫疾患領域等は今後も大きな成長が期待できます。

C型肝炎においては、世界に1億6千万人、日本には約150万人の患者さんがいると推定されています。インターフェロンとリバビリンが治療に導入されて以降、C型肝炎の治療は飛躍的に改善しました。しかしながら、インターフェロン治療が適さない、または効果がなかった患者さんやリバビリンでの副作用のため治療ができない患者さんも多く、これらの患者さんには依然として新たな治療手段が必要です。アツヴィの療法では、インターフェロンを使用しない、経口薬のみの治療法であり、これまでインターフェロンの副作用で十分な治療ができなかった患者さんにも新たな治療の選択肢を提供することができるようになると考えています。

〈疾患への正しい理解を生むために〉

アツヴィは、新薬を生み出すだけでなく、疾患への正しい理解を生み出すことによって、疾患への偏見や差別を解消し、患者さんの人生に大きな影響を与えることも私たちの使命と考えています。そのような視点から、「IBD（炎症性腸疾患）を理解する日」や美容学校の学生を対象とする皮膚科専門医の講義により乾癬が感染する疾患ではないことを中長期的に啓発する活動などを行っています。

このほか医療従事者向けサイト「AbbVie Channel」や患者さん向けサイト「myHumira®」、「シナジスダイアリー」、一般向けサイト「SmallBaby.com」などを通じて疾患の病態や患者さんに役立つ情報提供の充実化を図っています。

〈患者さんを笑顔にするために〉

アツヴィでは、「社員が成長できる文化を基盤として、最先端の科学技術と先進的な取り組みにより、患者さんの笑顔に貢献し続けるバイオ医薬品企業になる」というビジョンを掲げています。このビジョンの下、患者さんそしてご家族の笑顔のために、アツヴィの社員一人ひとりが自分に何ができるかを考え、日々の業務に取り組み生かしていくことを最も大切にしています。

2年目を迎えたアツヴィは、成長の基盤にこの患者さんの笑顔に貢献する企業文化の醸成を据えながら、複雑かつ困難な疾患で苦しんでいる患者さんのアンメットメディカルニーズに一日でも早くお応えできるよう尽力してまいります。



ルボックス



ヒュミラ



シナジス



早産児の成長の記録やエピソードをまとめた冊子
「スモールベビーフォトブック」



医療従事者向けポータルサイト ABBVIE CHANNEL

医薬品集発刊!

JAPIC「医療用医薬品集2015」検索用DVD付 好評発売中

- ・6月20日付の後発品薬価収載、効能追加等を含む、7月3日入手分までの情報を収載(約20,000製品)
- ・医療用医薬品添付文書情報を有効成分(約2,100成分)ごとにまとめて掲載。約1,400成分については「構造式」も掲載
- ・同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより、効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ・先発品(またはそれに準じるとされる医薬品)と後発品及び局方品が明確に区別できるように記載
- ・価格: ¥13,000(+税)・B5判
検索用DVD(非インストール版)単品での販売もございます。¥7,620(+税)。



JAPIC「一般用医薬品集2015」(要指導医薬品を含む) 好評発売中

- ・国内流通の一般用医薬品、約11,000製品を収録(2014年7月までの一般用医薬品情報を収録)。「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しています。
- ・最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅。医薬品製品ごとのリスク区分を本文(製品説明部分)及び索引に掲載
- ・付録: 一般用医薬品のリスク区分一覧(成分)・ブランド名別成分比較表・国内副作用報告の状況・重篤副作用疾患別対応マニュアル(一部)を収録
- ・価格: ¥9,000(+税)・B5判
[お問合せ先] 事務局 業務・渉外担当 (TEL: 0120-181-276)



10月末発売!

「JAPIC医療用・一般用医薬品集インストール版2014年10月版」

- ・医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。(医療用は2014年10月、一般用は2014年9月までのJAPIC入手分)
- ・製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。
データ出力形式: タブ区切り/カンマ区切りテキスト(csv)
- ・薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、薬剤識別コード情報、添加物なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ・完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現!
- ・価格: 単回¥14,287(+税)。年間セット4枚(10月・1月・4月・7月) ¥23,806(+税)。



「JAPIC OTC医薬品CD-ROM 2014年10月版」

- ・一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報(2014年9月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ・「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しております。
- ・検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ・インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。
- ・JANコードによる製品直接表示機能も搭載。
- ・価格: ¥3,000(+税)/単回。
[お問合せ先] 事務局 業務・渉外担当 (TEL: 0120-181-276)



10月発刊します!!

新薬承認審査報告書集 「日本の新薬」 60～64巻

本書は独立行政法人医薬品医療機器総合機構で行われた新医薬品の承認審査の報告書（以下審査報告書）をまとめて編集したものです。平成25年1月～12月までに承認・公表された69品目を承認月順に収載し、60～64巻の5分冊にまとめました。

各巻は成分名の五十音順に配列され、訂正のある報告書については、1～59巻同様本文中に修正前と修正後がわかるように編集しています。昨年12月に発刊いたしました「日本の新薬」53～59巻（平成24年1月～12月承認分を承認月順に収載）に引き続いての刊行となり、全64巻では867品目を収載いたしました。なお、1～20巻（平成10年～平成17年承認分）は、薬効別で収載しています。

新薬承認申請の際の参考資料として、また大学の医薬品情報およびレギュラトリーサイエンス教育用の教材・資料としてご利用いただけます。

〔お問合せ先〕事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276）

10月の企業展示

平成26年10月に下記の2学会において展示を行います。

1. 第20回日本薬剤疫学会学術総会2014

- 開催日：平成26年10月11日（土）～12日（日）
- 展示会場：松山市総合コミュニティセンター（愛媛県松山市湊町七丁目5番地）

医薬品の有害事象出現傾向の把握等にご利用いただける、「大規模安全性情報サービス JAPIC AERS」のご紹介を行います。

JAPIC AERSとは…

- ① JAPIC FAERS*1データの提供
- ② JAPIC FAERSデータおよびJADER*2データを用いた、安全性シグナルの検出およびご要望に応じた調査・解析結果の提供

*1:FAERSとは、米国FDAの製造販売後安全性サーベイランスを目的に設計された有害事象自発報告システムであり、このデータを整備し、解析しやすくしたデータをJAPIC FAERSといます。

*2:JADERとは、独立行政法人医薬品医療機器総合機構が「副作用が疑われる症例報告」に関する情報を医療機関、薬局および製薬企業から収集し、データベース化し、そのデータをWeb上で公開しているものです。

2. 第47回日本薬剤師会学術大会

- 開催日：平成26年10月12日（日）～13日（月・祝）
- 展示会場：山形国際交流プラザ 山形ビッグウイング（山形県山形市平久保100番地）

院内採用医薬品集作成システム「JAPIC PIA」のご紹介を中心に行います。

JAPIC PIAとは…

医薬品集や院内採用薬一覧をWordで簡単に作成いただけるシステムです。目次・索引も作成できます。また、院内の採用薬データをHTML形式で作成できるため、院内LAN上での採用薬添付文書情報の閲覧が可能です。

学会にご参加の際には、是非弊センターのブースまでお立ち寄りください。
皆様のご来場をお待ち申し上げます。

〔お問合せ先〕事務局 業務・渉外担当（TEL：0120-181-276）

最近の話題

リスクコミュニケーションと 患者向医薬品情報

昭和薬科大学 医療薬学教育研究センター 教授
山本 美智子 (Yamamoto Michiko)



はじめに

私は20年余り医薬品情報、特に安全性情報の提供に関わってきました。かなり最近になって、それはリスクコミュニケーションというカテゴリーに捉えられるようになり、私自身、リスクコミュニケーションに曲りなりに関わってきたことを自覚している次第です。

海外の公的機関（または製薬会社）からの医療者向けの安全性情報として、一つ象徴的な例があります。当初ドクターレターと呼ばれていたものが、ヘルスケアプロフェッショナルレターに変わり現在はヘルスケアプロフェッショナルコミュニケーションになりました。それは、情報の共有化と双方向性を意図するようになったからだと思います。安全性情報は、医療従事者向けに出されることが一般的でしたが、カナダ（ヘルスカナダ）では、関わった当初から医療従事者と同時に患者にも提供されていました。またFDA（米国）からは、Public Health Advisory（公衆衛生勧告）が出されていました。しかし、FDAの改革の中で発足したリスクコミュニケーション諮問委員会が、医療従事者と消費者が情報を共有できるよう勧告し、2010年よりDrug Safety Communicationという一つの文書として提供されるようになりました。長年続いてきたPublic Health Advisoryをいともあっさり捨て去ったことに、当時少なからぬショックを受けたものです。

Shared decision makingに向けた医薬品情報

日本語でコミュニケーションというと、どちらかというと、口頭での話し合いをイメージされる方が多いかと思えます。公的な通知をコミュニケーションと呼ぶには何となく違和感があります。また、コミュニケーションを「情報提供」とすると一方的ですし、適切な日本語訳も残念ながら見つかりません。

リスクコミュニケーションの定義として、Morgan MG., Fischhoff B.らが提唱する「リスクに関する情報を専門家内にとどめず、一般公衆を含む利害関係者間において共有し、消費者が健康や安全性等のリスクに関し独立した判断 (shared decision making) ができるように必要な情報を提供するために意図されたコミュニケーション」

が個人的にはすばらしいと思っています。Fischhoff氏は、米国リスクコミュニケーション諮問委員会の委員長でもあり、お会いしてお話したのですが、その学識の高さとお人柄のすばらしさに感銘しました。医療の場合、shared decision makingには以下のことが必要とされています。なお、薬物治療に関していえば、shared decision makingに相当する言葉としてconcordanceが用いられることもあります。

- 1) 医師（医療従事者）と患者が治療の意思決定に参加し、お互いに情報を共有すること
- 2) 医師（医療従事者）と患者が、パートナーシップに基づきお互いの専門性を尊重し意思決定のプロセスを重視すること
- 3) 医師（医療従事者）と患者が、相談して治療法を決定し、その治療の開始に同意すること

ここでいう患者の専門性とは、患者自身が身をもって体験していることや患者の視点、意向などを指しています。

今や、グローバルな流れとしてshared decision makingを捉える必要があります。各国とも、本当にそのようにできるかどうかは別として、患者・消費者向けにshared decision makingができるような情報提供を大前提としています。米国ではFDAのリスクコミュニケーション戦略計画2009にも明記されていますし、欧州（EU）ももちろんです。EUでは全ての承認薬の承認要件の一つとして患者向け医薬品情報PLs (Package Leaflets) がある。英国ではそれはPILs (Patient Information Leaflets) と呼ばれている。PILsのガイダンスには、「患者は処方された医薬品について、その適切な情報によりconcordantなdecision-makingの全面的な関与をサポートされる」と記載がある。言い方は少々異なるが、shared decision makingに向けての医薬品情報を提供することを目的としている。患者は医師から処方箋をもらい、それを薬局に持っていくと医薬品は箱単位で提供される。箱ごとにPLが梱包されているので、必ず患者の手元にPLが届くしくみになっている。興味深いのは、日本では箱に入っているのは医療者用添付文書に対し、EUでは患者用リーフレットである。

患者向け医薬品情報とユーザーテスト

では、患者にとって、「shared decision makingに向けた医薬品情報」とは何なのでしょう。基本的には添付文書に準拠し、医療従事者用のレベルと遜色ないような内容である必要がある。そのほか、生活していく上で、必要な情報も織り込む必要がある。そのような情報の質の担保、そして患者や消費者が本当に理解し、対処できるかといったことに対し、欧州指令 (Directive) 2001/83/EC (のちに指令2004/27/ECに変更) により2005年にPLのユーザーテストが義務づけられた。テストにより情報へのアクセスのしやすさ、読みやすさ、理解やすさが検証される。患者の意見を取り入れ、それがエビデンスとして示されることが求められている。

このユーザーテストは、有用性の診断テストでもあり、PLのみならず、小冊子やリーフレットからウェブ情報まで消費者の健康情報を改善するのに大変有用である。ユーザーテストでは実際の生活にできるだけ近い状況で実施される。

参加者に情報についてどのように思っているのか尋ねるばかりでなく、情報から特定の箇所を見出すために質問を設定し、参加者がそれをいかに見出すことができたかそれを理解できているか観察する。

ユーザーテストのもう一つの大きな目的として、患者の安全性確保があり、重要な安全性メッセージをいかに組み入れるかといったことも検証される。

ユーザーテストの条件や基本事項を以下に示す。

<テスト用PLの準備>プロトコルの作成、ユーザーテストに用いるPLのドラフトを用意する。

<テスト形式>参加者とインタビュアーとの1:1の対面のインタビュー方式で行う。

参加者の条件: ガイドラインでは、医薬品を服用することがイメージできる広範な異なったタイプの人々で、医療従事者や以前に当該医薬品を服用した患者は除外される。次に参加するまでに6ヵ月以上は空ける。

<インタビュー内容>

- ・医薬品の重大な安全性事項を適切にカバーし、質問は、通常12-15問程度。
- ・一般的な事項 (飲み忘れ、副作用が起きた場合の対処など) 及び医薬品に関連した特別な遵守事項をカバーする。
- ・記載されているフレーズをそのまま答えるのではなく別の言い回しで回答させる

簡単なテストの実施プロセスは、本テストに先だ

ち、3~6人を対象としたパイロットテストを2回実施する (図)。このテストの目的は、事前に問題点を発見し、解決することであり、本テストに向けてPL草案を修正する。その後、本テストとして2回実施する。参加者10人で2回行う。テストの合格基準は、質問に対し参加者の90%が情報を見つけ出し、そのうち90%の人が正確に答えることを確認する。2回のテストの合計で20人中16人が正解であればテストは合格とみなされる。

終わりに

患者向け情報の質を担保しそのエビデンスを示すためにユーザーのテストの導入には、かなりの年月を費やして業界や患者団体、アカデミアとの話し合いや交渉が持たれたようである。現在、国内においては、薬事法により情報提供の義務はあるが、その質は特に問われている訳ではない。このようなユーザーテストの手法を用い、質の検証をしていくことも一つの試みと言えよう。患者が情報を理解し安全性確保に結びつけることができるかということのエビデンスとして実証できる意義は大きいと考える。Fischhoff氏の言によると「もし、自分たちのメッセージが相手に理解されなかったら、その責任は自分たち送り手側であって、(メッセージの) 受け手側にあるのではないとみるべきである。」このことを肝に銘じ、今後も医薬品情報に関わっていければと思っている昨今です。

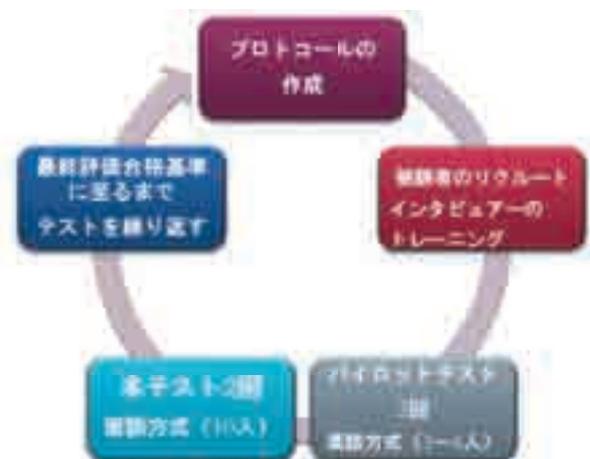


図 欧州 (EU) における Package Leaflet のユーザーテストのプロロー

目からウロコが落ちるような出会い

大正製薬株式会社 医薬事業部門 情報検索室

高橋 俊哉 (Takahashi Shun-ya)



大正製薬株式会社について

当社は、「正直・勤勉・熱心」に紳士的な事業活動を実践するという、紳商の精神のもと、OTC医薬品を中心とするセルフメディケーション事業と、医療用医薬品を手掛ける医薬事業を両輪として事業活動を行っています。2012年には創業100年（創業1912年10月）を迎えました。私が所属する医薬事業部門は、感染症、整形外科疾患、精神疾患、代謝性疾患を重点領域として研究開発を行い、本年は、自社オリジナル製品の2型糖尿病治療薬「ルセフィ」を上市しました。本社は鉄腕アトム生誕の地で知られる高田馬場にあります。手塚ファンにはお馴染みですが、高田馬場駅早稲田口の線路橋脚壁面には、アトムをはじめとする手塚キャラクターが描かれ、電車の発車メロディーもアトムのテーマ曲が流れています。

私の仕事とJAPICとの関わり

私が所属する情報検索室は、社内各部署からの調査依頼やリファレンスの対応を中心とした検索業務を行っています。また、外部情報（冊子やデータベース）の選定・導入を行い、情報検索用ポータルサイトを構築して社内に提供しています。その中で、私の担当業務は検索結果のデータ加工や情報検索に関わるシステムの開発です。JAPICとの関わりは、システム開発において、iyakuSearchの検索結果から文献原本をオーダーするWebシステムを構築・提供していることで、社内のユーザーに便利に使ってもらっています。iyakuSearchは、国内医薬品の安全性情報収集に欠かせないJAPICDOCを無料で検索できるということもあり、情報検索室のサーチャーは大変重宝しています。また、私はJAPIC Daily Mailの契約窓口を担当していますが、利用部署の方からは海外措置情報を素早く入手できる貴重な情報源として、必要不可欠なサービスと聞いております。

諺（ことわざ）との出会い

さて、話は大きく変わりますが、最近、とても興味深い諺に出会ったのでご紹介したいと思います。その諺とは、「学問なき経験は、経験なき学問に勝る」（イギリスの諺）です。

ある時の飲み会でお酒のメニューを見ていたら、友人からお酒（日本酒・ビール・ワイン等）の違いについて聞

かれました。私は以前にビール工場見学で受けた説明を思い出し、「日本酒やビールはアルコール発酵の前に糖化という工程があり、ワインは糖化という工程がない？…あれれ？なんだったっけ？」うまく説明できない。工場見学で微生物の力に感動し、説明を理解した（つもり）なのに、言葉に詰まってしまいました。

みなさんは人に何かを説明しているとき、自分の理解不足に気付くことってありませんか？私の場合、テレビや新聞、本などで感動した言葉や周りの人から掛けてもらったアドバイス、映画で感動したセリフなどは経緯を含めて説明することができるのですが…この違いは何なのでしょう？私が思うに、同じ感動でも、字面を追うなど頭だけで理解して感動することと、自ら試行錯誤するなどの実体験を経た上で理解・共感して感動することに大きな違いがあるのではないかと思います。実体験に基づく共感のあるなしが物事に対する理解の深さ、記憶の定着に大きく影響するのではないかと考えていた矢先に先の諺に出会い、目からウロコが落ちるような思いをしました。

振り返れば、私が医薬品業界に携わったきっかけは、高校生の頃に見たテレビ番組NHKスペシャル「生命40億年はかな旅」（1994年放送開始）でした。40億年間、1度たりとも途切れることのない命のバトンを預かっている自分、まさに「生きていること自体が奇跡」という感動を受けたことを今でも覚えています。以来、生命の神秘・不思議さに関わりたいという思いを持ち続けて今に至っています。最近では技術士（生物工学部門）の勉強会や研修会に参加して、最先端のバイオテクノロジーの知識に触れるだけでなく、様々な人との出会いや新たな経験を大切にしています。

「学問なき経験は、経験なき学問に勝る」

この諺に出会ってからというもの、仕事でもプライベートでも、自ら積極的に新たな世界・体験を求めようと努めています。そして、自分の中に未知の知識をしっかり咀嚼できる土壌を築き、これから得られるであろう貴重な知識を単なる知識に終わらせないように、知識と経験を上手く繋ぎ合わせて吸収していきたいと思っています。

くすりの散歩道

NO.80

歯のお話

(一財)日本医薬情報センター
 医薬文献情報担当
 岡本 恵 (Okamoto Megumi)

少し涼しくなり、夏バテで落ちていた食欲が復活してきた頃ではないでしょうか？

今回は、食生活を営んでいく上でかかせない大切な歯のお話を取り上げたいと思います。

皆様は「歯の先天性欠如(先天性欠損歯、無歯症とも言う)」をご存知でしょうか？

永久歯は、親不知を除いて、上下顎で合計28本あります。本来、永久歯になるための芽(歯胚)が乳歯の下で育ちますが、それが形成されない場合に永久歯が萌出せず、先天性欠如歯となります。これは、病気ではなく、歯の形成異常の一つと考えられています。永久歯が萌出せず、乳歯に齲歯がない健全な場合などは、30代になっても乳歯が残っているケースがあります。

2011年3月に発表された日本小児歯科学会による調査結果で、永久歯28本中1~数本の先天性欠如が認められる子どもが10人に1人いることが判明しています(10.1%;2007~2008年の7歳以下の子ども15544人での調査)。下顎で、中央から左右に向かって5本目にある第2小臼歯がないケースが最も多く、次に2本目の側切歯のないケースが続きます。上顎のみの欠損は2.5%、下顎のみの欠損は5.7%、両方の欠損は1.9%でした。

その原因として、食生活の変化による退化現象が有力視されています。その他、遺伝的要因や内分泌腺の障害、妊娠初期の母親からの影響などがありますが、現在明確な原因は特定されていません。そのため、予防ができません。

実は、私もこの先天性欠如があり、齲歯治療のためにエックス線写真を撮った際に指摘されました。

いわゆる欠損状態ですので、乳歯が抜けた後は永久歯がない欠如部分にその両隣の歯が倒れて、歯並びや噛み合わせに問題が生じ、虫歯や歯周病が生じやすくなるだけでなく、顔や顎が変形する場合があります。また顔だけでなく、体の骨格にも影響を及ぼすこともあるそうです。



年に1回歯科検診を受けておられますと、どうしてもこの先天性欠如について、歯科医の先生たちから毎回コメントが入りました。ただし、「自然の成り行きなのだから、このままで構わない」、「早々に治療しないといけない」など、先生たちの見解は様々でした。実際に、複数の専門医にかかり、見解を伺ってみても、各先生方が取得されている技法にも左右されて、見解が割れているようでした。要は、当然ですが、治療の如何は本人次第なのです。

治療方法としては、義歯治療、ブリッジ治療、インプラント治療、矯正治療などが挙げられます。いずれの治療方法も、金銭面も含め、長所短所がありますが、私は(ブリッジ治療で)健全な歯を削ることに抵抗があったこと、また偶然にも審美的な理由から矯正治療を受けていた、もしくは受けている近しい友人が数名おり、体験談を直接聞ける環境にあったことから、矯正治療を選びました。

矯正治療では、健全な歯を削ることは免れましたが、治療の第一歩として、上顎と下顎の歯の本数を合わせるため、残念ではありましたが、齲歯のない正常な歯を抜く必要がありました。また、他の治療方法と比較すると、金銭面でも時間的な面でも負担は大きかったのではないかと思います。とはいうものの、歯の先天性欠如への対処の他に、審美的な面で満足できる結果を得たとも考えています。また、長期的な治療を受けたことから、歯に対して「ここまでやったのだから、今後は大切にしよう!」という意識の変化がありました。

歯の治療を行うか否か、またいずれの治療を選択するかは、熟考されて、納得した上で決められることをお勧めします。先天性欠如に関わらず、日頃の歯の手入れや年次的な検診はかかせないものと考えます。歯は食生活に必須ですので、また、その噛み合わせは姿勢などにも影響を及ぼすため、健全な状態に越したことはないでしょう。健康な人生を歩むために、少なくとも1年に1回は歯について考えてみるのはいかがでしょうか？

❖ JAPICサービスの紹介 ❖

■ JAPIC-Q (医薬文献・学会情報速報) サービス

JAPICでは、事業の一つとして“医薬品の安全性に関する情報の提供”を行っています。

今回は、多くの製薬企業の皆様にご利用いただいている「JAPIC-Q (医薬文献・学会情報速報) サービス」についてご紹介します。

JAPIC-Qサービスとは・・・

JAPIC-Qサービスとは、当初、GPMSP省令による製薬企業の業務支援を目的として、平成5年4月1日より開始したサービスです。現在はGVP省令第7条の「安全管理情報の収集」に関する支援を行っています。関連法規の変遷に応じ、20年以上継続して情報を提供しています。

特徴

1. 国内で開催される医学・薬学関連の学会予稿集・プログラム・学会報告および医学・薬学関連の学術雑誌を収集
(**§豊富な資料源と情報提供量§**参照)
2. 医薬品の安全管理情報に関する情報を迅速に提供
3. 予め対象とする医薬品を登録していただき、毎週1回JAPIC構築データベース (PhaDoMs) を検索した結果を提供するSDI (Selective Dissemination of Information) サービス



文献情報の収集労力・費用・サーチの人手が節減できます!!
ご登録の医薬品情報を効率的、かつ迅速に評価できます!!

§豊富な資料源と情報提供量§

- 国内で開催される医学・薬学関連学会の総会・年会、学術大会、地方会など年間約5,500*学会の予稿集・プログラムを収集 (主に地方会の学会収集に力を入れています)
→各種学会誌、地方会誌に掲載された学会情報も含め年間約76,000*報告 (演題) の学会情報を提供しています。
- 国内の医学・薬学関連雑誌430*誌に掲載された論文
→年間約21,000*報告の論文情報を提供しています。

※2013年度実績

§JAPIC-Qサービスのキーワード§

Qサービスのご利用には、予め医薬品名をご登録いただきます。

Qサービスのキーワードとして、医薬品名と内容に関連した21種類のキーワード (副作用、感染症、有害事象、自殺企図、毒性等、相互作用、過量投与、誤用乱用、医療過誤、職業上の曝露、品質、その他 (その他の安全性情報)、副作用軽減、有効性欠如、無効、妊婦、授乳婦、18歳以下、適応外使用、一般用医薬品、偽造薬) があります。

医薬品名と上記キーワードから、各ユーザー様のご要望に対応した検索式を作成し、JAPIC構築データベース(PhaDoMs)よりJAPICが検索を行い、検索結果を週1回提供します。提供の際には資料源となった学会名・学会開催日・学会開催地、あるいは雑誌名・雑誌の発行年月・著者名・所属機関などの書誌の情報も含めてお届けします。また、過去に遡ってのQサービスの検索も行っております(JAPIC-Q遡及検索)のでお問い合わせ下さい。



§ご利用方法§

ご利用には、検索式の登録等の手続きが必要です。ご要望をお伺いし、JAPICで検索式を作成、ご確認いただいた後にスタートとなります。また、ご登録内容の変更やご相談も承ります。どうぞお気軽にご連絡下さい。

■ JAPIC-QXサービス

Qサービスの検索結果をさらにユーザー様のご要望に応じて加工し、ユーザーズに則した内容で提供するサービスです。どうぞお気軽にご相談下さい。

お問い合わせ先(医薬文献情報JAPIC-Qサービス担当)
TEL:03-5466-1821(直) E-mail:japic-q@japic.or.jp

MEDLINE索引語MeSH、SCRの医薬品名用語と 米国・欧州承認医薬品名の調査

(一財) 日本医薬情報センター データベース検索サービス課
井上 彰 (Inoue Akira)

【はじめに】

ライフサイエンス分野の書誌データベースは調査・研究を行う際に、なくてはならない存在です。書誌データベースを利用するにあたり、そのデータベースの持つ特徴を理解する事が重要となります。2014年7月に開催されました第17回日本医薬品情報学会学術大会にて、「MEDLINE索引語MeSH、SCRの医薬品名用語と米国・欧州承認医薬品名の調査」というテーマで発表した内容についてご紹介いたします。

【MEDLINEとは】

MEDLINEは、米国立医学図書館 (NLM) が作成する医学・薬学などライフサイエンス分野を中心とした書誌データベースです。非常に長い歴史と、2014年現在で5000誌を超える採択雑誌に掲載の学術論文等の書誌情報が登録されています。このデータベースはPubMedとして無料で利用できるようになっており、大学・研究者、製薬・医療機器企業、医療従事者、行政など広く利用されています。

【MeSH・SCRとは】

MeSHとはMedical Subject Headingsの略称で、MEDLINEの索引用語となります。索引用語は論文の内容に対して論文の主題となるような用語になります。MEDLINEを作成しているNLMにより、論文全文からその論文の主題となる項目についてMeSHが複数語付与されています。よって、標題・書誌事項・著者抄録にはない、論文全文中に含まれている主要な要素について、索引用語から検索が可能となります。また、言葉には様々な表現方法や同義語の存在があります。そうした表現の揺らぎを吸収する役割が索引用語にはあります。なおMeSHは原則として毎年改訂され、索引用語のメンテナンスが行われています。

SCRとは、Supplementary Concept Recordsの略称です。MeSHは多くの医学に関連した用語からなっており、この用語の中には多くの医薬品・化学物質の索引用語を含んでおります。しかし全てを網羅している訳ではありません。MeSHに収載されていない医薬品や化学物質、また一部の疾患名称について、SCRは補完しています。SCRは原則毎週更新されています。

【調査の内容】

ある医薬品に関して文献検索を行う際、検索用語を考える際に索引用語であるMeSHやSCRは検討すべき主要な検索対象となります。そこで現在、承認されている医薬品名について、どの程度がMEDLINEの索引用語MeSH、SCRに収載されているかを検討しました。

【方法】

MeSHやSCRは、作成しているNLMのHPで全データが公開されています。今回は公開されているXML形式のデータから必要な情報を抽出するプログラムを作成し、MeSH、SCRそれぞれのデータとしました。

抽出した情報とマッチングする医薬品名としては、米国承認医薬品と欧州中央承認医薬品を対象としました。米国承認医薬品は、米国食品医薬品局 (FDA) のHPにあるDrugs@FDAの項に掲載された全件を対象としました。欧州中央承認医薬品は、欧州医薬品局 (EMA) のHPにあるEuropean public assessment reports (EPAR) にあるリストに記載のある医薬品名を対象としました。

【結果】

MeSH医薬品や化合物の用語は、Category D1に分類されています。MeSHの索引用語数は、27,149件のうちCategory D1の用語は9,279件あり、同義語の数としては79,904件あります。またSCRでは医薬品や化合物の用語はClass 1に分類されています。SCRの索引用語数は、223,866件でClass 1の用語は216,038件であり、同義語の数としては528,516件あります。米国承認医薬品名は商品名として6,233件、一般名として2,387件あります。また欧州中央承認医薬品名は商品名として922件、一般名として587件あります。

MeSH、SCRと米国、欧州承認薬の比較結果は、図1、図2のとおりになりました。

【まとめ】

MeSHやSCRの用語と、米国・欧州の医薬品名を単純一致させた場合に、同義語までを含めた場合には、3分の2の医薬品名が含まれている事が確認できました。一方で一致しなかった用語では、配合剤や同位体元素を含む医薬品名や塩の記載様式が異なっていました。

MeSHやSCRを検索に使う際の調査にあたり、大部分の用語はMeSHやSCRの索引用語を調査するMeSH Browserから容易に検索できる事が確認できました。

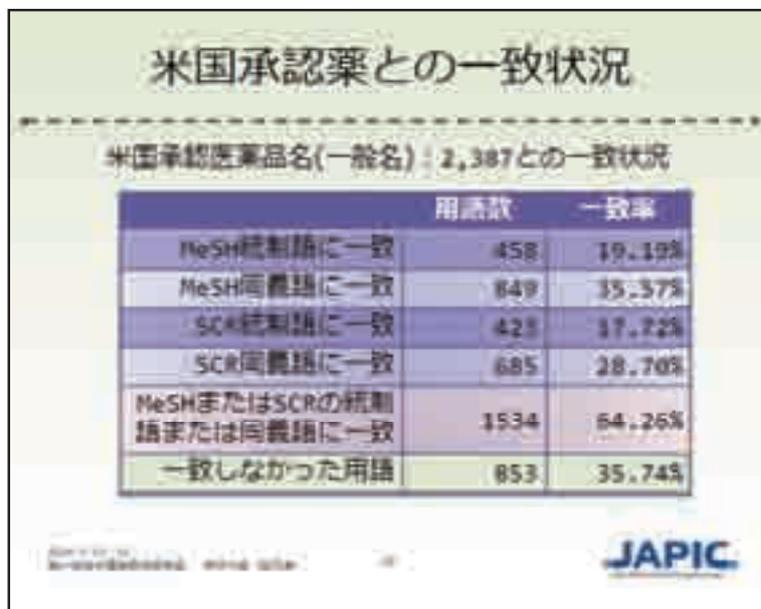


図1 米国承認薬との一致状況

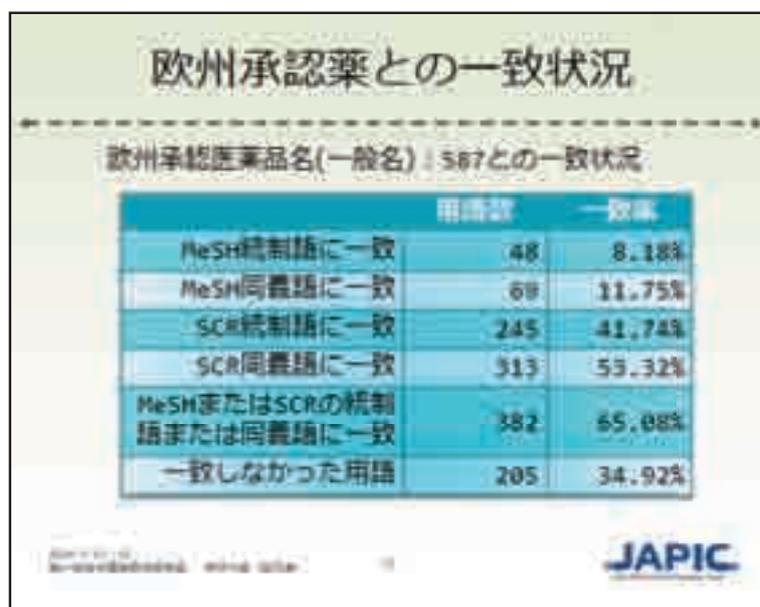


図2 欧州承認薬との一致状況

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2014年8月1日～8月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.464-467)の記事から抜粋

■米FDA

- 業界向けガイダンス：輸血によるマラリア伝播リスク低減のためのドナーへの質問事項、(献血の)延期、再登録および製品管理に関する勧告
<<http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM080784.pdf>>
- StrykerおよびGamyarの血液/体液用Warmer Cassette：緊急回収
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/SafetyAvailability/Recalls/ucm407997.htm>>
- 業界向けガイダンス：治療用タンパク質の免疫原性評価
<<http://www.fda.gov/downloads/Drugs/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/UCM338856.pdf>>
- Voluven (hydroxyethyl starch) 注射剤：添付文書の改訂
<<http://www.fda.gov/BiologicsBloodVaccines/BloodBloodProducts/ApprovedProducts/NewDrugApplicationsNDAs/ucm410073.htm>>
- 業界向けガイダンス：梅毒のスクリーニング検査に基づいた血液ドナー・全血・血液成分のスクリーニング、検査および管理に関する勧告
<<http://www.fda.gov/downloads/BiologicsBloodVaccines/GuidanceComplianceRegulatoryInformation/Guidances/Blood/UCM340993.pdf>>

■Health Canada

- ARZERRA (ofatumumab) –慢性リンパ性白血病患者における致死的なinfusion reactionについて
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2014/40853a-eng.php>>
- 標的処方および安全な使用の促進のための放出制御opioid鎮痛剤の表示改訂
<<http://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2014/41157a-eng.php>>

■EU・EMA

- CMDhは乳汁産生抑制のためのbromocriptineの使用制限を支持
<http://www.ema.europa.eu/docs/en_GB/document_library/Referrals_document/Bromocriptine_31/Position_provided_by_CMDh/WC500171671.pdf>

■英MHRA

- 虚血性脳卒中に対するalteplaseの使用
<<http://www.mhra.gov.uk/NewsCentre/CON448382>>

■独BfArM

- 腹腔鏡下術用モルセレーター (Laparoskopische Uterusmorcellation)：組織破壊
<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Medizinprodukte/DE/laparoskopische_Morcellatoren.html>
- interferon betaに関する情報：血栓性微小血管症およびネフローゼ症候群のリスクについて
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RHB/2014/info-interferon-beta.html>>
- domperidoneのRote-Hand-Brief：重篤な心臓における副作用
<<http://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RHB/2014/rhb-domperidon.html>>

■仏ANSM

- bromocriptine含有医薬品、全身投与用aceclofenac含有医薬品、povidone含有methadone医薬品：CMDhの2014年7月会合からの情報
<<http://ansm.sante.fr/S-informer/Actualite/Medicaments-contenant-de-la-bromocriptine-de-l-aceclofenac-a-usage-systemique-de-la-methadone-et-de-la-povidone-Retour-sur-la-reunion-de-juillet-2014-du-CMDh-Point-d-Information>>
- 欧州における仲裁手続き後のフランスにおけるレニン・アンジオテンシン系作用薬に対する販売承認変更の実施手順について
<<http://www.ansm.sante.fr/Activites/Autorisations-de-Mise-sur-le-Marche-AMM/Medicaments-agissant-sur-le-Systeme-Renine-Angiotensine-modalites-de-mise-en-oeuvre-de-l-arbitrage-europeen>>
- ketoprofenゲル (Ketumおよびジェネリック薬)：光線過敏症のリスク低減のための対策について
<<http://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Gels-de-ketoprofene-Ketum-R-generiques-rappel-du-risque-et-des-mesures-visant-a-reduire-le-risque-de-photosensibilite>>

■ニュージーランドMedsafe

- statinsと急性腎不全リスク (横紋筋融解症を除く)の可能性 (更新情報)
<<http://www.medsafe.govt.nz/safety/EWS/monitoring-communications.asp#Statinsupdate>>
- TOPAMAX (topiramate)錠およびスプリクルカプセル：警告と使用上の注意の改訂一視野欠損
<<http://www.medsafe.govt.nz/safety/DHCPLetters/TOPAMAX-Aug-2014.PDF>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介：<<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

【新着資料案内 平成26年8月1日～平成26年8月31日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著編者	出版者	出版年月
The Merck Veterinary Manual. 10th ed.	edited by Cynthia M. Kahn	Merck & Co.,Inc.	2010年
JAPIC一般用医薬品集2015	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2014年9月
JAPIC医療用医薬品集2015	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2014年8月
JAPIC医療用医薬品集2015 薬剤識別コード一覧	日本医薬情報センター 編	日本医薬情報センター	2014年8月
今日のジェネリック医薬品 2014-2015	増原慶社、北村正樹、[今日の治療薬]編集室 編	南江堂	2014年7月
実践小児薬用量ガイド	甲斐純夫、加賀谷肇、佐藤透 監修	じほう	2014年7月
重篤副作用疾患別対応マニュアル第2集 第2版	日本医薬情報センター 発行	日本医薬情報センター	2014年8月
腸内フローラと加齢 (腸内フローラシンポジウム 22)	神谷茂 編	ヤクルト・バイオサイエンス研究財団	2014年7月
保険薬事典 Plus+ 平成26年8月版	薬業研究会 編	じほう	2014年8月
保険薬局業務指針 2014年版	日本薬剤師会 編	薬事日報社	2014年7月
慢性腎臓病の脂質管理のためのKDIGO診療ガイドライン	日本腎臓学会、KDIGOガイドライン全訳版作成ワーキングチーム 監修	東京医学社	2014年7月
慢性腎臓病の評価と管理のためのKDIGO診療ガイドライン	日本腎臓学会、KDIGOガイドライン全訳版作成ワーキングチーム 監修	東京医学社	2014年7月
薬事法令ハンドブック:薬事法、薬事法施行令、薬事法施行規則 平成26年度版		薬事日報社	2014年6月
薬事法令ハンドブック 承認許可要件省令:構造設備規則、GQP、GVP、GMP、GLP、GCP、GPSP、QMS 第6版		薬事日報社	2014年6月
役に立つ 医薬品情報	宮城県薬剤師会薬事情報委員会 編	宮城県薬剤師会	2014年6月

情報提供一覧

【平成26年9月1日～9月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	9月5日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [添付文書入手一覧] 2014年8月分 (HP定期更新情報掲載)	9月1日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [JAPIC NEWS] No.366 10月号	9月26日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
4. [JAPIC一般用医薬品集2015]	9月1日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		5. 臨床試験情報	随 時
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.947-950 (旧:医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	7. 学会開催情報	月 2 回
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
4. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.3238-3257	毎 日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
5. [JAPIC Weekly News] No.467-470	毎週木曜日	〈iyakuSearchPlus〉 http://database.japic.or.jp/nw/index	
6. [Regulations View Web版] No.294-295	9月12日・26日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.557-561	毎週月曜日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
8. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
9. [JAPIC医療用医薬品集2015]更新情報2014年9月版	9月30日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
		外部機関から提供しているJAPICデータベース	
		〈JIP e-infoStreamから提供〉 https://e-infostream.com/	
		〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 http://jdream3.com/	
		〈株式会社日本経済新聞デジタルメディア日本テレコンから提供〉 http://t21.nikkei.co.jp/	

JAPIC

医療用医薬品集2015 <検索用DVD付>



- ◆2014年6月後発品まで収載
- ◆約40年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新情報に基づき作成
- ◆検索用DVD(非インストール版)付 (DVD単体7,620円(+税)で別途販売しております。)
- ◆便利な「薬剤識別コード一覧」(冊子。別売1,000円(+税))の無料請求葉書付
- ◆類似薬選定のための「薬効別薬剤分類表」を収載
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)

好評発売中!!

B5判 約3,600頁 / 13,000円(+税)

■検索用(非インストール版) DVD Windows版 とは

◆収録内容

- ◎医療用医薬品集
- ◎一般用医薬品集
- ◎薬剤識別コード一覧
- ◎薬価情報
- ◎後発品の全情報
- ◎添加物情報
- ◎最新添付文書画像(PDF)の表示機能付 (無料・要インターネット接続。医療用薬は週1回、一般用薬は月1回更新)

定価: 7,620円(+税)

※インストール版(CD-ROM)は14,287円(+税)で別途販売しております。

JAPIC

一般用医薬品集2015 (要指導医薬品を含む)

- ◆リスク区分(第1類~第3類医薬品)をわかりやすく表記。
- ◆最新の一般用医薬品添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。
- ◆国内流通医薬品をほぼ網羅する11,000製品を収録。「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載。
- ◆個々の製品について製造・販売会社、組成、添加物、適応、用法、リスク区分を記載。
- ◆付録には、リスク区分情報、ブランド名別成分比較表、国内副作用報告の状況、重篤副作用疾患別対応マニュアル等を収録。

好評発売中!!

B5判 約2,000頁 / 9,000円(+税)



一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善出版株式会社 発売 TEL 03-3512-3256

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

ガーデン

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

こすもす

別名: おおはるしゃぎく、あきざくら(秋桜)。学名: *Cosmos bipinnatus* Cav.
英名: Common cosmos。きく科こすもす属。1年生草本。メキシコ原産。幕末から明治にかけて渡来、全国的に普及。花期は秋、白色から薄紅色~濃い赤色などの花が風に揺れはかなげに咲く。中心部にある筒状花は種子を付ける。花はAnthocyanin色素cosmosiin等やtriterpene alcohol類含有。(hy)



JAPICホームページより
http://www.japic.or.jp/

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。